

ガソリン携行缶

正しく使う6つのポイント!

1 危険性について

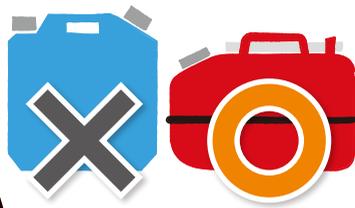
ガソリンは気温が-40℃でも気化し、小さな火源でも、離れていても引火し、爆発的に燃焼する物質です



軽油は+40℃で気化します

2 容器について

灯油用ポリエチレンかんにガソリンを入れることは非常に危険です



ガソリンを入れる容器は消防法令により一定の強度のある材質を使用することと容量が制限されています

3 購入について

セルフスタンドでは利用者が自らガソリンを容器に入れることはできません



消防法令の基準に適合した容器でガソリンスタンドにて購入してください

4 保管について

ガソリンを容器に入れて、長期間、または不必要に保管することは極力控えてください



ガソリンは、揮発性が極めて高く火災が発生すると爆発的に広がるので、直射日光や高温になる場所には保管しないでください

6 取扱いについて

使用時には取扱説明書をよく読み、適正な取扱いをしてください



パッキンの劣化、キャップの締め方の不備等注入口からの漏れによる危険物漏えい事故の報告があります

5 噴出事故防止について

ガソリン噴出は事故につながります。取扱いには十分注意してください



ラベルのついた
確かな製品を
選びましょう



試験確認済証
1-0-250
L KHK Y
危険物保安技術協会

これが安心の印です。
「試験確認済証」
ガソリン携行缶には、使用上の注意事項が表示されています。良く読んで安全にお使い下さい。このラベルは、消防法による容器性能試験に合格したガソリン携行缶に貼付されています。



危険物保安技術協会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-3-13ヒューリック神谷町ビル
TEL. 03-3436-2353

携帯・スマートフォンで! PCで! <http://www.khk-syoubou.or.jp/>
危険物保安技術 検索

ガソリン携行缶
ご使用時の

重要なお知らせ



ガソリンは揮発性の 強い危険物です!



ガソリン携行缶は正しく使用してください。

※必ず取扱説明書をよくお読みになり、十分理解した上でご使用ください。

ガソリンの 危険性について

ガソリンは気温が -40°C でも気化し、小さな火源でも引火し、爆発的に燃焼する物質です(軽油は $+40^{\circ}\text{C}$)。

ガソリン携行缶のお取り扱いについて

ガソリン携行缶をご購入あるいはすでにお持ちのお客様へ

ガソリンの保管・携行には専用の金属容器を使用することが法律で決められています。

ポリタンク等、他の容器に入れることは禁止されており非常に危険です。

消防法で定められた認定品(KHK等)をご使用ください。

ガソリン携行缶に給油するときの注意

- ①セルフスタンドでは自分で給油することができません。法律で禁止されています。
- ②給油前に、パッキン・キャップ・エア調整ねじ・本体に異常がないか確認してください。
- ③給油時は、車両のエンジンを切り、静電気を除去してから給油を開始してください。
- ④給油後は、キャップ・エア調整ねじをしっかりしめて、もれがないか確認してください。
- ⑤給油後は、中に何が入っているか誰が見ても判るように、付属のシール(ガソリン・軽油・灯油等)を目立つところに貼ってください。
- ⑥給油量は、規定容量以内で給油してください。

ガソリン携行缶に給油後お車等に車載して運搬、また運搬後の保管するときの注意

- ①車載して運搬する場合は、必ずポリ袋に入れ、トレイ等の上に載せてください。
- ②安全で、傾きのない平らな場所で保管してください。
※直射日光が当たる場所・高温になる場所・雨雪が当たる場所・湿気の多い場所等はガソリンの揮発や缶本体の錆び等につながり大変危険ですのでお避けください。
- ③ガソリンは揮発性が強いため、内圧の変化でガソリン携行缶が変形する恐れがあります。適時エア調整ねじをゆるめ、減圧してください。
※減圧時も火気厳禁です。
- ④ガソリンも劣化します。長期保管したガソリンはお車に悪影響をおよぼす恐れがありますので使用しないでください。
- ⑤ガソリンにも水分が含まれています。ガソリン携行缶の錆びの要因になりますので、長期保管しないでください。

ガソリン携行缶からお車・発電機等に給油するときの注意

- ①ガソリンは非常に危険な液体です。周囲の安全性を必ず確認してください。
- ②給油されるお車・発電機等のエンジンを切り、特に発電機や草刈り機等はエンジンを冷ましてください。
※静電気にはご注意ください。
- ③傾きのない平らな所に置き、必ずエア調整ねじで内部の圧力を減圧してください。
- ④ゆっくりとキャップをはずし、給油ノズルを取り付けしっかりしめてください。
- ⑤こぼしたり、人体に付着しないよう注意深く、慎重に給油してください。
※万が一のため、手袋等をはめることをおすすめします。
- ⑥給油後はウエス等できれいにふき取り、ガソリン携行缶内にガソリンが残る場合は、キャップ・エア調整ねじをしっかりと確実にしめてください。
※空の状態でも保管する場合はパッキンの劣化を防ぐため少しキャップをゆるめてください。

次回ご使用になる場合の注意

- ①ガソリンは非常に揮発性が強く危険な液体であることを再度認識してください。
- ②上記に記載されていることを再度確認し、劣化部品(特にパッキン等)はお取替えの上でご使用ください。